

より安全な CRS の使用促進に向けた今後の検討方針

1. 課題

自動車アセスメントにおける、より安全な CRS の使用促進の取組においては、以下の基本的な課題がある。

- ① CRS が十分に使用されていない（使用率 6 割程度）。
- ② CRS が適切に取り付けられていない（不適切率 6 割以上）。
- ③ 基準不適合の CRS が使用されている可能性がある。
- ④ より安全な I-size 対応（UN 規則第 129 号適合）の CRS が普及していない（国内の一部のメーカー及び輸入品販売会社のみ取り扱い）。
- ⑤ CRS 評価の結果が改善されていない（依然として「推奨せず」に該当するものがある、優のものが少ない等）
- ⑥ CRS 評価の方法に改善が必要(腹部傷害値測定方法が非効率、5 歳児未対応等)。

2. 課題への対応

「1.」に掲げた課題があるところ、従来のロードマップに従って CRS に関する新たな基準である UN 規則第 129 号をさらに厳しくした条件での評価を実施するよりも、これらの課題を解決するための直接的な方策を優先して実施することにより対応する必要があると考えられる

なお、実施に当たっては、自動車アセスメント以外で実施するものとの整理が必要となる。

(1) 「1. ①、②、③及び④」への対応：

パンフレットの記載内容を工夫するとともに、さらに効果的な啓発チラシを作成して配布することなどを検討する（例：近所を低速で走行するような場合でも死亡・重傷事故が発生する可能性があることを示す情報を周知するなど）。

(2) 「1. ⑤」への対応

1) 評価結果に対する理解度向上策の検討・実施

自動車アセスメントの評価結果（優・良・普）に違いがあることを示す（例：傷害としてどの程度の違いになるかを分かりやすく示す。非常に優れたものを表彰して CM 等で使われるようにする（従来からある ISOFIX ゴールドマークの取扱の改善等））。

2) 評価結果に対する認知度向上策の検討・実施

効果的な広報活動によって、評価結果がユーザーにとって身近なものとなるようにする（例：インターネットの比較情報サイトなどの商品掲載ページに自動車アセスメント評価結果へのリンクを貼ってもらうことによって、ユーザーが評価結果にアクセスしやすいようにする（来年度にホームページ更改で自動車の評価結果が検索しやすくなることに伴い、自動車の評価結果と合わせて依頼予定）など）。

(3) 「1. ⑥」への対応

CRS 評価の方法の改善のための調査・研究を実施する。具体的には、ダミーの腹部評価性能が向上した Q ダミー（UN 規則第 129 号で使用されるダミー）を使用すること及び義務付け対象年齢をカバーできるように Q ダミーの中でも 5、6 歳程度に相当する Q6 ダミーを使用することなどを検討する。